

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価(3月19日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①生徒一人ひとりの目標実現に向けたカリキュラム・マネジメントを進める。 ②工業高校生に求められる学力の向上を図る。	①教育課程の見直し ②評価方法の共通化による授業改善	①H30入学生教育課程の作成と具体化を検討する。 ②科目単位で評価方法の共通化を進め、授業改善につなげる。	①教育課程・授業形態の課題を整理できたか。 ②共通のテストによる評価方法の共通化を進めることができたか。	①H30入学生より1学年で減単した1単位を「基礎学習の時間」として位置付け、基礎演算・一般常識・SPI問題集で学習する時間とした。 ②ほとんどの科目で試験問題の共通化ができています。	①生徒の資格・検定試験の補習の時間の確保により、基礎学力の促進につながっているか検証していく必要がある。 ②定期試験問題の共通化はほぼ達成をみた。今後は、評価方法、授業改善の共通化に力を入れたい。	①新たに「基礎学習の時間」を設け、実施の運びとなったことは大変良いことである。生徒の目標実現に向けて、有効なカリキュラムであると考えられる。生徒の意識づけとしては「基礎学力の時間」に対する重要性を把握させ、一人ひとりがやって良かったと実感できることが大切である。 ②評価方法共通化の目標達成は授業改善であることから、どのように授業を変容させるかひきつづき、取り組まれない。	①1学期の「基礎学習の時間」は今までどおり1年副担任団で基礎演算を組織的に運営していくことになったが、まだ教室数確保の目途が立っていない。 ②試験共通化はほぼできているが、非常勤が複数人で持つ科目は共通化が難しい。	①「基礎学習の時間」を充実した内容になるよう、教育課程ワーキンググループと1年副担任と連携を取り、運用について引き続き協議しながら形を作っていく。 ②試験共通化に向けて、教員の理解と授業改善に力を入れていく。
2 生徒指導・支援	①社会や産業界に期待される規範意識の向上を図る。 ②豊かな人間性や社会性を培う生徒の主体的活動を支援する。	①「磯工ブランド」に対する生徒の意識の向上 ②学年を越えた生徒の主体的活動の支援 ③生徒健康支援	①日常生活や集会等で、生徒一人ひとりの行動が「磯工ブランド」を作っていることを理解させる。 ②学年を越えた活動を、生徒会行事の中で設定する。 ③生徒の健康状況を把握する。	①生徒は「磯工ブランド」を意識して、学校生活を送ることができたか。(生徒アンケート実施) ②学年を超えた活動を行う生徒会行事を実施できたか。 ③生徒の健康状況の検査および相談を実施できたか。	①機会を捉え磯工生としての誇りと自信を持ち、ブランド力を向上させるように意識づけした。 ②2学期に計画した綱引き・大縄跳び・リレーを実施する競技会は、今年度は実施できなかった。	①2月にアンケートを実施。 ②実施時期および実施する種目・実施方法等について、再度検討を必要とする。 ②教育相談のSSWとSCが同日来校する等の連携継続を行う。	①磯工ブランドとしては、教師の努力が実り、根付いてきていると思う。強制的に意識させなくても、生徒自らのプライドとして根付くようになると良いと思う。 ②学年を超えた活動への参加は、現実的に実施まで持っていくのは難しいのかと思うが、豊かな人間性や社会性を培うため、無理なく継続的な支援をしていただきたい。 ③今後も専門職との連携、職員間での時用法共有を図り、健康支援を継続してほしい。	①磯工ブランド意識アンケートの結果、7割の生徒が磯工ブランドを知っており、6割強の生徒が磯工生で良かったと答えている。 ③ 学年を超えて実施できる行事として綱引き・大縄跳び・リレーを行う『3種競技会』の計画と実施要項の立案はできたが、実施の時期について検討課題を残すこととなった。	①磯工生としての誇りを持ち、より一層自己有用感を持った生徒を育成できるように指導する。 ②寒暖によるケガや体調不良者が出ないように、運動に適した気候における実施が図れる開催時期および実施方法を検討していく。 ③生徒情報交換会を継続する。学校・家庭および生徒本人が気付いた疾病等の症状や状況の情報収集を今後も継続する。 ③教育相談のSSWとSCが同日来校する等の連携を継続する。 ③健康診断・身体計測・各種検査の実施調整を継続する。

	視点	4年間の目標 (平28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価(3月19日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりの可能性を引き出す進路指導を行う。 ②社会・産業界に期待される資質・能力を育成する。	①ガイダンス内容の見直し ②資格・検定取得の支援	①昨年度見直したガイダンス内容を実践し検証する。 ②資格・検定取得の支援を充実させる。	①今年度のガイダンス実践により生徒の進路意識を向上できたか、また、新たな改善点についてまとめることができたか。 ②資格・検定取得の割合を高め、取得率が増加したか。	①進路説明会、面接・ビジネスマナー指導校受験者に対する講話、進路ガイダンス等の実施。 ②計算技術検定情報技術検定、危険物取扱者などの実施。	①今年度も高進路決定率維持。これから実施のものはその効果を継続して検証。 ②さらなる合格率の向上と危険物受験料値上げによる影響が予想される中での最善の支援の検討。	①生徒一人ひとりの状況を把握した上で進路指導を行っており、ガイダンスの実践により生徒の進路意識の向上につながっている。就職率がよく、真面目な生徒をしっかりと伸ばしてくれる学校だと思う。学習につまづきのある生徒にとって座学だけでなく、実習でも引っ張ってくれる、大変ありがたい学校として評価している。 ②資格・検定取得、合格率向上に力をいれるとともに、生徒に負担がかからない最善の支援をお願いしたい。	①今年度より新たに3年生のビジネスマナー講習会と1年生進路ガイダンスを実施した。就職希望者は100%を達成した。進学も推薦等希望者は全員合格し、一般受験合格者も出てきている。 技能講習を始め、各種検定試験において多くの合格者を出すことができた。国家資格の受験者を増やし、合格率を高めたい。	①新たに導入したガイダンス等の実施結果を検証し、生徒の進路意識向上を図り来年度は、就職率100%をもっと早い時期に達成させる。進学についても大学等に入学してもついていけるような学力の生徒を育成する。また1月に県から出された通知に基づき、推薦等の出願に際しては事故のないようチェック体制の徹底を図る。 ②分かりやすいテキスト及び補講等により合格率を向上させる。受験料の値上げなどについて学校としてできる支援の方法を考えていく。
4	地域等との協働	①産業界との連携の充実を図る。 ②地域との連携・協働を推進する	①デュアルシステム充実の方向性の検討 ②地域連携の推進	①デュアルシステムを拡充し、将来の職業選択の認識を広げ、好ましい職業観勤労観を養う。 ②近隣の小中学校に向き本校のPR活動を行うとともに、地域貢献活動を通して、工業高校として出来る内容を精選し、より地域に根ざした工業高校を目指す。	①参加企業、体験生徒数の増加ができたか。 ②小中学校の件数が増えたか、また内容が適切だったか。	①機械科・電気科・建設科・化学科各科の発表を実施した。 ②地域貢献活動を通し、近隣地域との連携が図れた。中学校対象の地域連携については概ね達成できた。	①各科の受入企業を増やす。 ②受入小中学校を増やす。	①デュアルシステムが、全ての科で実施できたのは、良いと思う。職業選択の認識を広げ、好ましい職業観、勤労観を養うため、今後も継続拡充してほしい。 ②地域住民に貢献デーのPRが広まってきたと思う。貢献活動をとおして地域から必要とされている学校であることがわかる。中学校や各行政機関との連携も図れており良いと思う。	①工業4科においてデュアルシステムを実施し発表会において後輩に継承することができた。 ②地域の方からの喜ばれる声を生で聞くことにより、参加した生徒一人ひとりが専門高校に進学をした喜びを感じたようである。	①次年度も継続し、受入企業を増やしていく。 ②放水訓練を森南地区町内会・日下連合町内会・磯子消防署杉田出張所と連携して継続実施する。 ②年金の話講演を磯子区役所・日本年金機構横浜南年金事務所・日本年金機構横浜中年金事務所と連携して継続実施する。 ②AED講習会で磯子消防署杉田出張所・磯子区内消防団と連携して継続実施する。
5	学校管理 学校運営	①事故を防ぐ業務手順の整理 ②防災に係る校内体制の整備	①内規・マニュアルの見直し ②校内の施設・設備の安全対策の強化 ③校内美化とゴミ分別の推進	①内規で修正が必要な箇所を確認し、整理する。 ②部活動の活動場所の安全点検実施に向けたチェックシートを作成する。 ③ロッカー等の転倒防止措置の徹底と、校内の危険箇所を総点検する。 ④リサイクルゴミ分別の徹底を図る。	①内規・マニュアルの必要な修正等ができたか。 ②作成したチェックシートに基づき安全点検を実施できたか。 ③リサイクルゴミ分別に必要な改善ができた。	①内規集の見直しに引き続き力を入れる。 ②安全点検チェックシートの点検結果に基づいて問題箇所を事務に連絡し、改善活動を行うことができた。	①毎年度、県から通知される防災活動マニュアルの作成方針等に従い、適正な文書に修正・整理する。	①災害時速やかに対応できるよう、引き続き防災マニュアルの整理をしてほしい。 ②部活動の安全点検チェックシートの活用は良いと思う。学校環境整備事業による旧黒板の復旧等、今後も学校環境整備に力を入れてほしい。 ③日頃からゴミ分別指導に取り組まれ、落ち着いた環境で勉強ができています。	①内規集について、総括をする部署がないこと、また現在の業務との齟齬が発生していることが解った。 ②安全点検チェックシートの点検結果に基づいて活動の際に問題となる箇所を事務に連絡し、改善活動を行うことができた。	①内規集、マニュアルについて現在の業務内容と関係部署がもう一度内容を確認し、それについて総括をする部署を明確化し、早急な内規集についての見直しが必要である。